

# Try & Challenge

～夢をかなえるために～

「実践」

《自由な発想と大胆な行動》

# 雄飛

第32号 2006. 8月

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 福田一哉 編集責任者 植田寿雄 印刷所 東京印刷株式会社

## ■ 会長あいさつ



第32期会長  
福田 一哉

鳥取県西部中小企業青年中央会第32期会長を務めさせていただきます福田一哉でございます。どうぞよろしくお願いたします。

一昨年に鳥取県西部中小企業青年中央会が30周年を迎えたのに続いて、昨年は鳥取県中小企業青年中央会も30周年事業を大成功のうちに終えることができました。これもひとえにOB会員をはじめとする関係各位のご理解とご尽力のお陰と心より感謝いたします。

さて、去る7月14日に多くのご来賓ならびにOB会員にご出席いただき、平成18年度総会・懇親会を開催し、32期の活動が正式にスタートいたしました。

我が青年中央会は、32年前に起きたオイルショックの余波で日本の経済のみならず世界中の経済状況が混沌とするなか、『先が見えない閉塞の状況を打破することが出来るのは夢を叶えようとする青年の熱き想いとその夢に向かって恐れることなく挑んで行く姿勢に他ならない。』との意気に燃える有志が集って発足いたしました。そして、故・中村実氏の『自由な発想と大胆な行動こそが青年の特権である。』というお言葉の通り、自由な雰囲気の中、大胆な発想を持ち、その発想を実践活動の中で実現していく大人の会として本日まで確かな伝統を築きながら進化してまいりました。

ここで、30周年を機に第二世代と称される我々の活動を始めるにあたり、32期の私どもが掲げるスローガンならびにテーマは、

スローガン 「Try & Challenge」 ～夢をかなえるために～  
テーマ 「実践」 《自由な発想と大胆な行動》

とさせていただきます。

社会の状況や仕組みは、32年前に比べると様変わりしてまいりました。青年中央会もまた同じであります。それでも、我々の中に熱く流れる青中スピリッツは少しも変わることはありません。そのスピリッツを抱き続けながらも、過去のしきたりや風習にとらわれることなく、我々第二世代の青年中央会は先輩の皆様方に築き上げていただいた歴史と誇りという土台の上しっかりと腰を据えて一歩一歩着実に前に進んで行きたいとおもいます。

本年度も、当会のすべての活動が会員の利益になるべく、よりいっそうの活動の強化・充実に努めてまいる所存です。会員の皆様には、積極的な参加と理解・協力をお願いいたします。また、今日の青年中央会を築いてこられた諸先輩の方々におかれましては、変わらぬご支援をお願いいたしまして私の挨拶とさせていただきます。

## ■ 県会長あいさつ



第32期県会長  
釜田 公文

昨年は30周年記念事業も無事終わり、新たな時代を迎えようとするときに第32期県会長を拝命いたしました。私事で恐縮ですが入会11年目を迎え、自分なりに県青中の30年を振り返って見ますと、県の役割として各地区の懇親事業並びにその調整役、親会との調整役が主な事業であったと思います。

これらの事業も確かに大切な事業ですが、外部の方々からは“中央会は研鑽事業ばかりを行っている”と映っているように聞きます。

そこで今年度のテーマとして「地域貢献 ～ゼロからの出発～」といたしました。

これからの時代を鑑みますに、予想されるのは少子高齢化に伴い人口の減少であり、若者たち勤労世代の県外への流出です。そこで鳥取県では中高生に対して県事業とし、地元企業の協力のもと、勤労体験を実施しています。しかし、実態は各学校の先生方が企業を訪問し協力をお願いをしているようですが、なかなか苦戦しているようです。

我々、地元中小企業も他人事ではなく、将来における人材確保の面から見ても率先して取り組んでいくべきではないかと考えます。

そこで、青年中央会の統一事業としてこの事業に取組み、対外的に中央会が認めてもらえる一端になればと考えております。少子高齢化を解消する一つの案として、親との同居や地元ならではの保育環境の充実などを若い人たちに理解してもらおう授業の実践、文字通り『ゼロからの出発』になります。何処まで出来るのか未知数のところはありますが、皆さんの協力があれば面白い展開になることと思いますので、どうかご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

## ■ 32期副会長 抱負

### 総務・エコチャレンジ委員会担当

今期、副会長として総務委員会とエコチャレンジ委員会を担当させていただきます。福田会長の掲げた「Try&Challenge」のスローガンのもと、自分自身も中央会内外において何事にも前向きに取り組み、実践していきたいと気持ちを新たに考えています。

担当する委員会は、これから各委員会テーマに沿って継続事業と新規事業が進められていきます。ディスカッションを密にして、委員長ならびに委員会をサポートしていく所存です。

今期、委員会名に「わくわく」というフレーズが使われています。この言葉はどの委員会にも該当すると感じます。聞くだけでもわくわくするこの言葉は、何か始める時、行動する時の原動力となるようにおもいます。この気持ちをどの場面でも忘れることなく、副会長の役を勉強させていただきます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



中田 耕治

### 政治行政・わくわく発掘委員会担当

今年度、副委員長を拝命いたしました中島太郎と申します。委員会に期待することは『委員会に出るのが楽しみ』とメンバーが感じる運営をしていただきたいし、委員会メンバーには大いに自分の委員会の自慢をしていただきたいという事です。そのためには労を惜しまず、出過ぎず、謙虚に委員会を支えていく所存です。

本会も発足して32年目、親会との関係や県青中の在り方等、新しい岐路に立つ年となるうかと思いますが、諸先輩の残された轍を今一度振り返り、そして全身全霊で体感し、新たな道を造るべく前進していくのが我々に課せられた使命であるとおもいます。

技術論ばかりに走るのではなく、心と心がぶつかり合い何かを生み出す一年でありたいと思う次第です。どうぞ宜しくお願いいたします。



中島 太郎

### メディアコミュニケーション・ビジネス交流委員会担当

入会して6年半、今回私自身にとって最も重い役職をさせていただくことになりました。

短い中央会活動ではありますが、現在、会はいろいろな意味で変化しつつあると思っています。これを単なる「過渡期」とは違う、言葉だけではない「変革期」とするべく福田会長の「Try & Challenge」のスローガンのもと、会を盛り上げていきたいと思えます。

委員長2度目の畠山委員長、入会1年での大役を務める景山委員長を始めとする会員の皆さん、楽しく自己研鑽ができるように中央会のフィールドで暴れまくってください！

1年間どうぞよろしくお願いいたします！！



植田 寿雄

### 地域スクラム・夢委員会担当

我々青年中央会は創立30年という大きな時代の区切りを越え、新しい時代に合った組織に移行しようとしています。前例や慣習にとらわれない新たな発想と試みが求められています。この重要な年度に副会長を拝命し、その責任の重さを感じております。当会が更なる発展を遂げることができるよう微力ですが尽くす所存です。担当委員会がすばらしい成果を上げることが出来るよう、副会長としての職務を遂行します。

今年度は地域スクラム委員会、夢委員会と新しい試みが期待されている委員会の担当になりました。委員会メンバー並びに当会の会員の皆様、一年間、よろしくお願いいたします。



水 康徳

## ■ 32期委員長 抱負

### 総務委員会

#### 中村 臣成

平成18年度総会、懇親会、卒会式において第32期総務委員会がスタート致しました。

比較的、入会年数の浅いメンバーで構成されている当委員会では福田会長のスローガンを理解し、失敗を恐れず前へ前へと爆進していく所存であります。テーマは「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」とし、「会員は会の為に、会は会員の為に」を常に念頭に置いた意味ある活動を目指します。また過去に捉われず自ら考え、判断し行動することを心掛け、形式よりも人ありきの活動に注力し、会の円滑な運営の為の事務局の基礎も構築させます。以上、一年間宜しくお願いいたします。



### メディアコミュニケーション委員会

#### 景山 周司

今年度メディアコミュニケーション委員会の委員長として、昨年度1年間この委員会でも色々なことを学ばせて頂き、最優秀委員会で終わった31期メディアコミュニケーション委員会の意志を受け継ぎ、いっそう充実した広報活動。そして内向き・外向きの情報発信の強化を目指し、西部青年中央会に貢献できるよう努力していきます。

「Try&Challenge」委員長として期待と不安が入り混じっていますが、委員会のメンバーと一緒に考え・学び・楽しみたいとおもいます。中央会経験の浅い委員長ですが、一步踏み出し、挑んでいきます。皆様のご指導、ご協力の程宜しくお願いいたします。



## エコチャレンジ委員会

木下 勝



今日の私達の豊かな生活は大量生産・大量消費・大量廃棄の経済社会システムにより成り立っています。この結果、大量の廃棄物発生や大気・水・土壌の環境破壊を招いてきました。このような状況を改善する為に、①汚染源となる物質を出さない（発生抑制）、②中古品として再利用する、③原料・熱源として再利用する、といった循環型社会システムが生まれ、物品購入の判断基準も【環境に優しいこと】を優先に考えることが増えてきており、【環境】は重要なテーマとなっています。当委員会活動は「ただ単にやらなければならない」という使命感だけでなく、「楽しく持続できる活動」を心掛けていきたいと考えています。どうぞ会員の皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 政治行政委員会

牧田 継夫



第32期福田会長、中島副会長より委員長のお話をいただいた時は、正直「え？僕が？」とおもいましたが、中央会に入会して4年目を迎えるにあたり、少しでも恩返しが出来ればとおもい受けさせていただきました。伝統ある政治行政委員会。身が引き締まるおもいです。今年度政治行政委員会は、「米子駅周辺開発」について研究してまいります。非常に大きな課題ですが「バリアフリー化」を取っ掛かりとして「未来都市図」を描き、山陰の、中国地方の、いや日本海側の大陸に向かう大切な玄関口として、その秘めた可能性を開花させる第一歩を提案していきたいと考えています。自慢の委員会メンバーに負けぬよう頑張ります。1年間よろしくお祈りします。

## 夢委員会

後藤 太良



この度「夢委員会」委員長をさせて頂くことになりました、後藤太良です。福田会長より「自分の好きなように、おもいっきりやれ」といわれ、「やってやれ！」との思いからお引き受けいたしました。「夢！」という大きな言葉。正直必死で考えました。そこで私は「サムライ」というテーマをもうけました。最近メディア等で「最近の日本人は」「最近の若者は」などという言葉を目にします。そういう言葉を吹き飛ばす意味でも、自己研鑽をし、「サムライ」を勉強し、一年間突っ走っていきたくて思っております。私はもちろん委員会メンバー、そして会長ともども「サムライ」になってやろうとおもっております。

## 会計担当理事

田中 康裕



今年度、会計担当理事を務めさせていただく田中康裕です。昨年のマラソン部長の役目が終わり、やれやれとおもっていたところでしたが、何か役職がないと出席しない私の性格を見抜いた福田会長に「感謝」申し上げます。「会計担当」という過去にない役職ですので、当面何をしていけばよいやら試行錯誤の状態ですが、会員の皆様からお預かりした会費が、事業計画通りに執行されているのかを、総務委員会の皆様の協力をいただきながら随時チェックしていくことが当面の活動とおもっております。そして任期中に、親会から財政的に自立した会計体系の基礎を築くことを目標に活動していきたいと考えております。何はともあれ、本年度会費の「期限内納付」よろしくお祈りいたします！

## わくわく発掘委員会

増井 幸一



子供のころ遠足が待ち遠しく、楽しかった思い出は誰もがもちだと思えます。大人になってもどこか旅行に行くときそんな気持ちになることでしょう。わくわくの名前の通り、いつもわくわくする活動がしたい、観光となる逸材を発掘していきたいというものです。どんな小さなことでもいい、自分たちが楽しいと思うことは、自分の言葉で素直な気持ちで紹介できるようにしたいと思うのです。私たちの日常の中で、普通にしている事でも、旅に来た人にとっては、楽しいと思えることがたくさんあるように思えます。鳥取県西部を心から愛し、発信する為に、私たち自らが青年である特権をおおいに爆発させ、とにかくやってみる、行ってみるという実践形式で、本来の自由な発想と大胆な行動を武器に見つけていきたいと思えます。

## 地域スクラム委員会

土岐 哲己



今年度、地域スクラム委員会の委員長という大役にご指名いただき、自己研鑽の場を与えていただいたことに感謝すると同時に、身の引き締まる思いです。右も左も分からない私ですが、精一杯努めさせていただきます。さて、この委員会はSC鳥取の“Jリーグ”参入宣言を題材として、他の青年団体と連携してJ昇格への実践活動を展開し、そのビジョンと経済効果の検証を目的としています。市営東山陸上競技場という身近な場所で、地元のスポーツクラブが頑張っていることを今まで無関心でいましたが、Jリーグのクラブというプロスポーツチームがこの地域に誕生し、地域が盛り上がる描を想像するとワクワクしてきますし地域の発展にもつながると信じています。SC鳥取とJリーグへ！まずは皆さんと一緒にSC鳥取を応援に行きましょう！

## ビジネス交流委員会

畠山 広幸



みなさんこんにちは！第32期ビジネス交流委員会の委員長を務めさせていただきます畠山です。さて、何事によらず「事業」といわれるものを行うにあたり、最も大切なことは「志」だと考えています。それは、事業の成功イメージをどの高さにどんな内容に昇華させたいか、とも言えます。そしてその目標に向かって一生懸命に議論し行動することが正のプロセスだとおもいます。「ビジネス交流」を切り口に、「ベンチャー志本主義」を合言葉として、その実践と検証を行い、委員会の成果とメンバーの成長に貢献したいとおもいます。板垣前委員長の成果をしっかりと受け継ぎながら、活発に動き回りたいとおもっています。1年間よろしくお祈りします。

## 第32回 平成18年度通常総会



平成18年7月15日(金) 第32回平成18年度通常総会がホテルサンルート米子において開催された。

31期武海会長より『武海丸が皆様の後押しと、次年度役員の方々の引き上げにより、中央会という海を巡って無事帰って来ることができました事を感謝申し上げます。』と冒頭挨拶された。

決議事項に移り桶村副会長のもと、第1号議案「平成17年度事業報告」ならびに「収支決算案」、第2号議案「平成18年度事業計画」ならびに「収支予算書(案)」承認の件が満場一致で可決された。

続いて中央会活動に多大な貢献をされた第30期中本直前会長に特別功労賞と感謝状の授与が行われ、『私にはもったいない賞をいただき、有り難うございます。私自身がいただいたのではなく、共に汗をかき、また議論を交わし触れ合った皆様を代表して受賞したと実感しています。』と感謝の言葉を述べられた。

次に皆勤賞(20名)を代表して中津尾会員、精勤賞(29名)を代表して夏山会員へ会員表彰が行われた。

次に平成18年度最優秀委員会・優秀委員会が武海31期会長より発表され、「どの委員会も非常によくやって頂き、甲乙つけようがないが…」と述べられ、最優秀委員会は河津委員長のメディアコミュニケーション委員会、優秀委員会は村岡委員長の政治行政委員会、そして特別賞として堀江委員長の司法問題研究委員会が発表され、壇上に上がったそれぞれの委員会メンバーに会場から盛大な拍手が送られ、総会は無事閉会となった。

平成18年度通常総会・卒会式終了後、中村総務委員長司会のもと、通常総会懇親会が開会された。

来賓の方々が入場後、32期福田会長より今年度スローガン「Try&Challenge」について説明され、今年1年間の抱負を熱く語られた。

続いて、鳥取県団体中央会副会長岡田氏、衆議院議員赤沢氏、野坂米子市長、中村OB会会長に来賓の挨拶をいただき、中村境港市長の乾杯で懇親会が開会された。

懇親会は総務委員会川村副委員長に引き継ぎ、壇上でさらに股下姿の新入会員が、太鼓にそれぞれの思いを打ち込み紹介され、スクリーンでは新役員が紹介された。

佐々木団長率いるトライアスロン応援団が、出場選手の拝藤会員・宮崎会員の壮行会を力強く行い、両選手は熱く意気込みを語り、会場全体がひとつとなり三・三・七拍子で送り出した。

そして懇親会が盛り上がる中、岩田OBの♪“大漁宝船”披露で宴たけなわとなり商工中金米子支店長の継国氏が3本締めで中締めをされ懇親会は滞りなく閉会した。

最後に来賓の方々をお送りした後、11名の卒会者を「わっしょい! わっしょい!」のかけ声で元気よく胴上げで送り出し別れを惜しんだ。

(記事:小川)



### 卒会式

総会終了後、第31期卒会式が行われた。卒会者1人1人の名前を呼ばれ、壇上に上った卒会者13名(当日出席11名)に武海会長より「お疲れ様でした。」とねぎらいの声かけられ、卒会証書と記念品が贈られた。

卒会にあたり卒会者の方々は1人ずつそれぞれの思いを語られた。堀田一会員「もうちょっといたかった。たくさんの友人にめぐりあいました。」高橋隆一会員「中央会の面白さがわかった頃に卒会となりました。」松浦光善会員「7年間の在籍は短かった。」濱勇二郎会員「ようやく人と話ができるようになった。」土井裕次会員「人のつながりがこんなにもいいものだ実感できた。」田中英治会員「市位OB、宮廻OBに感謝したい。」平新武志会員「10年の間、いろんなことを学ばせていただいた。」夏山裕一会員「たくさんの人と知り合いになれて本当に素晴らしい会でした。」三嶋雄司会員「いい思い出、いい経験をさせていただいた。」中津尾直己会員「最後まで青年らしく駆け抜けていきたいという思いで20年がんばってきました。」中本高夫会員「指導力とは何なのかを意識させられた6年間でした。」

在籍期間はさまざま。しかし、当会の活動の中で、人として大きく成長できたことは間違いない。特に昭和入会の中津尾会員は20年間の出来事が走馬灯のように思いだされたのか、感極まる場面もあった。最後に卒会者の方々は現役会員、OB会員の暖かい拍手で送られた。

(記事:本池)



# 第26回 全日本トライアスロン皆生大会



実行委員長 中本 高夫

我々青年中央会は「オール青年中央会」のスローガンのもと、AS部、マラソン部、ボランティア部の三本柱が連携をとりながら「中央会トライアングル」の形成を目指してきました。

実行委員長として会員がお互いに充実し、達成感を味わえるよう協力し合うことが重要であると考え、選手の為、また自らの為に汗を流すことを目標に致しました。そして、それぞれの部からの要請があればいつでも臨機応変にフットワーク良く動く体制が出来てこそ「中央会トライアングル」が完成すると確信致しました。

当日雨の為、体温を奪われる環境の中参加した我々会員は、活気と熱気そして選手の完走への強い想いに支えられ、ボランティア皆が輝くことができたことをご報告申し上げます。

最後に、青年中央会会員の御家族、従業員の皆様に多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを御礼申し上げます。ありがとうございました。



マラソン部長 山根 宏典

マラソン部の皆様、又、ボランティア部、AS部の皆様大変お疲れ様でした。

今年も全中央会で熱くこの大会が終わった事に心より感謝申し上げます。マラソン部は3月頃より作業を開始し、当日最後の最後までマラソンコースに想いを傾けて参りました。

今年の大会は雨に始まり、マラソン本部が水没するなどいろいろな事件がありましたが、我々の気持ちは大会を成功に導く為に一所懸命に努力致しました。また、中央会全体でこの大会に臨めた事が大きな収穫だったように思います。マラソン部員もそれぞれにこの大会の重要性和『米子は凄いんだ!』という事を感じる事が出来たと思います。

私個人の想いは、実は不完全燃焼に終わりました。出来た事、出来なかった事いろいろありましたが、何かやり残した事がある様に感じています。来年こそは完全燃焼で終わりたいと思っております。皆様どうぞよろしく御願ひ致します。



ボランティア部長 福田 一哉

第26回全日本トライアスロン皆生大会にご協力いただきました青年中央会の仲間達、大変おつかれさまでした。また、ご協力ありがとうございました。

午前中突然のスコールでみんながずぶ濡れになりながら頑張っている姿を見て、選手が頑張っている姿以上に感動したのは私だけではなかったはず。また、天候が急変することもあるので用意は周到にとっておきながら、カップも持たずに体力を消耗してしまった私のボランティアに対する甘さには反省しきりであります。

多少のアクシデントはありましたが、大きな事故もなく大会が無事終了したことは、ボランティアの皆様のおかげであり誇りであるとおもいます。

私個人としては、昨年のAS部に続く不慣れたポジションの中で皆様にご迷惑を掛けたことをお詫びするとともに、この経験を何とか今後につなげていけたらと考えております。

皆様、どうもおつかれさまでした。



AS部長 桶村 清子

何より無事に終わったことを感謝申し上げます。この度は『笑顔(しょうが)ん集楽(しゅうらく)』をスローガンにAS部の運営をしたいとおもっておりました。副部長の福庭会員・社会員、副部長補佐の濱田修会員と共に幾度となく会合を持ち、ボランティア参加のみなさんが楽しんでもらえる環境づくりの準備をしました。残念なことにASの立ち上げ時に激しい雨に見舞われ、準備していたことを皆様に披露できなかったのは少し心残りです。しかし、激しい雨の中で、テント張り・準備・ポイント立ち等々、会員のご家族・所属企業の社員・ご友人・OBの皆様そして会員ひとりひとりのおかげで乗りきることができました。終わってみれば『すごいことだ!』と感動しました。

慣れない運営で皆様には迷惑をおかけいたしました。この経験を今後のAS部の運営に活かさせていただきます。

本当にありがとうございました!

## ～トライアスロンそれぞれの想い～ 本大会目指し、事前準備・大会裏方



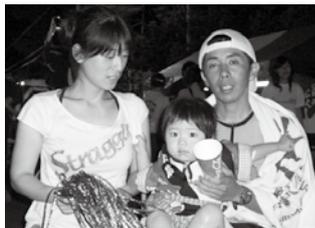
# トライアスロン選手の感想



トライアスロンに参加して  
宮崎 大介

今年の皆生はまさに子供の泥んこ遊びのような感じでした。スイムは比較的波も穏やかで良かったのですが、バイクは本当に大変でした。特に中山の坂は雨水が道路の上から滝のように流れてきて、おまけに折れた枝木まで流れてくる始末でした。僕は体脂肪20%の体を生かして下りで勝負するタイプなのですが、その得意の下りも今回は前が見えなくて全くスピードが出せず結局得意のバイクは不発でした。ランはとにかくマイペースを心がけているので雨が降ってもカンカン照りでもほとんど変わらず、終わってみれば結局去年とほぼ同じタイムでのゴールでした。この雨の中よくやったのか、はたまた進歩がないのか、何はともあれ公約どおり家高会員に勝ったのだけが救いでした。

最後にそんな大雨の中、めげずに準備や大きな声援を送ってくださった皆様には本当に感謝するとともに、私もそれに答えることの出来るよう更に練習に精進します。(中央会もがんばります!)



トライアスロンに参加しての感想  
拝藤 博幸

今年の皆生はとても辛いレースでした。スイムの後半で波が出てきて酔ってしまい、そしてバイクに入ったとたんかなり激しい雨になり、下り坂では小石を身体全体にぶつけられたような痛みでした。そんな中ボランティアのみなさんは、傘も差さずに応援してくれていました。その姿を見て力が入りなんとかバイクを終えました。ラスト、ランに入り待っていたのは寒さと疲労、そして筋肉痛でした。少し走り出した所でトップの選手とすれ違い、「笑顔でガンバレ!」と言われた時自分の無力さに気が付き、『よし42キロ笑顔で楽しく走り抜こう!』と思い選手やボランティア・スタッフすべての人に笑顔で応える内になんとか楽しくなりました“ランナーズハイ”(笑)。タニシASでは仲間が笑顔で迎えてくれました。『仲間っていいですね～。走り続ける力を与えてくれるんですよえ～。』そしてゴール前では、小林OBと家族と最高の笑顔でゴール出来ました。ボランティア・スタッフのみなさん、有難うございました。

## ～トライアスロンそれぞれの想い～ 声援に支えられ、栄光のゴール!!



# ボランティアに参加して

## 総務委員会

古谷 一郎

(平成17年度3月入会)

今回、はじめてトライアスロンボランティアに参加してとても良い経験をさせていただきました。

AS担当ということで選手の応援・サポートを行ない、体力の回復・休息及び安全に競技が進められるよう、みんな真剣に取り組んで行えたと考えています。前準備から長時間の立ち作業、後片付けまで雨も降り大変でしたが『笑顔集楽』らしく明るく楽しく参加でき、みんなが一つのことをやり遂げる達成感を久々に感じる事が出来ました。

来年また参加したいと思います。

## メディアコミュニケーション委員会

岩田 剛

(平成17年度5月入会)

A M7:00応援団のエールを受けて、宮崎・拜藤・家高選手が海に飛び込んで行った。

それから4時間後、タニシ AS AM11:00。雨・雨・雨・雨・雨・雨 すごい雨。俺のハートに火をつけた、雨！憎いやつ。ここまで濡れば怖いものはない。声の枯れるまで選手の名前を呼び続ける。仲間も皆、濡れながら応援し続ける。マーシャル通過 P M20:10。走り続けたタニシ AS の仲間たち。すごいぞ中央会。LOVE。

## メディアコミュニケーション委員会

村上 隆昭

(平成17年度4月入会)

当日は我々も熱い想いでは選手にも負けず劣らずの勢いで、必死で応援、サポートを行ないました。悪天候もあり、心身ともに疲れ果てましたが、その充実感は近年なく、満足感で一杯の一日でありました。小学2年生の長女を連れていき、皆にご迷惑をおかけ致しましたが、彼女なりに一生懸命頑張る姿が目に入り、娘の成長ぶりを喜んでおりました。彼女にとっても良い体験であったと思います。全ての関係者の方々に「ありがとうございました。」

## ～トライアスロンそれぞれの想い～ 大会を支え、盛り上げて！！



# 平成18年度鳥取県中小企業青年中央会 通常総会・親睦会報告



平成18年7月20日(木)平成18年度第32回通常総会がホテルセントパレス倉吉にて開催された。長雨の影響で県内外の各地で様々な自然災害が起きるなか、多くの会員が集まった。第31期家高謙児県会長の挨拶で『1年という短い期間のなかで、様々な事に挑んできた。中央会の良いところは単年の事業で色々な事に挑める。自分も自己研鑽させていただいた。』と感謝の言葉を述べられた。

続いて通常総会議案審議が行われ、議長は通例により第31期家高県会長が務め、第1号議案から第3号議案まで満場一致で承認された。続いて次年度県会長及び新役員が紹介され、第32期釜田公文県会長が代表して決意表明された。『これからの中央会はまだ会の外にもア

ピールし、外部からも認められる会に“スローガン”「地域貢献」のもと、今まで以上に忙しくなるとおもうが、会員ひとりひとりが協力して地域に根付いた活動をしていきたい。』と新たな鳥取県中小企業青年中央会の力強い出発となった。

記念講演ではテイケイ株式会社トライアスロン競技部チームテイケイ監督の八尾彰一氏をお招きし、「挑む～勝つ事よりも負けぬこと～」という演題でご講演いただいた。『スポーツマンもビジネスマンも同じ人間。毎日のノルマに満足するのではなく1年後～数年後を見据えてどう取り組んでいけるか、長い過程でどう自分を成長させるか、過程から発見することが次の挑戦につなが

る。逃げずにコツコツと。』など熱いお言葉をいただき、若輩者の自分としては強く感銘した良い出会いであった。

親睦会も同所で、講演会に引き続き八尾氏他、多くの来賓の方々を迎え開催された。恒例の鍵引渡式があり、家高直前県会長より釜田新県会長へと引き継がれた。東部・中部・西部の直前会長に盾の贈呈の後、来賓の祝辞、紹介、祝電、お祝いの品の披露のあと、乾杯へ移っていった。親睦会のイベントとして早食い競争で大いに盛り上がった。我々が西部は2位、東部1位、3位は中部と大接戦の戦いを繰り広げた。

今回初めて県行事に参加させていただき、ふだんあまりお会いする事のない東部・中部の会員の方々と親睦を深めることができ、とても実りある一日であった。(記事:安岡)



## 裁判所へ意見書提出 ～裁判員制度～

去る6月26日、第31期司法問題研究委員会は委員会活動の総仕上げとして、最高裁判所に「裁判員制度に関する意見書」を提出した。

具体的な内容としては、特に地方においては制度導入によって地域コミュニティが崩壊する懸念があることから、首都圏もしくは政令指定都市での実験的導入と都道府県境に拘泥しない広域運営といった段階的かつ弾力的な運用の必要性についての提言と、企業とその従業員のリスクヘッジに配慮を求める内容に主を置き、以下の3点について記し、意見を述べた。

- I. 裁判員候補者召集地域の見直し(候補者予定者名簿の拡大)
- II. 中小企業事業者等の実態に則した制度導入と運用の見直し、補助金等の整備
- III. 被雇用者の実態に則した制度導入と運用の見直し、補助金等の整備

今だから言えるが、上京するまでは一地方民意が“本丸”にどれだけ理解してもらえるのか一抹の不安を抱いていた。

しかしながら、実際に最高裁判所担当官と意見交換する中で、

我々の抱く懸念に対して真剣に耳を傾け、理解に努めようとする姿勢にまずは安堵し、そして、議論が進むにつれてそれが徐々に期待へと変化していくことを実感した。

また、同時に我々の危惧する点について既に一部想定して取り上げられていることと、3年後の制度実施直前に裁判員法自体が見直されることも明らかにされ、我々が下した“結論”に自負と確信を与えることができた訪所であった。

6月29日には同内容を鳥取地方裁判所へも提出した。我々の濃密な活動が、中央・地方の両側面から「裁判員制度」に一石を投ずることとなることを祈念して、1年間の委員会活動を終了した。

(第31期司法問題研究委員会委員長 堀江則夫)



## 8月役員会報告

8月定例役員会が平成18年8月1日(火)、米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・7月総会反省、報告の件
- ・8月例会開催の件
- ・書記・会計説明会の件
- ・その他

※なお、詳細については委員長までご参照ください。

## 8月例会案内

と き:平成18年8月17日(木) 19:00～

と ころ:ガンバリウス(大山Gビール)

会 費:3,000円

内 容:納涼例会

担 当:役員